

2.2.1 JTAG ケーブルの接続 (VR5432/VR5500/VR7700)

本製品付属の JTAG ケーブルでターゲットボード上の JTAG コネクタと PARTNER-Jet の JTAG コネクタを接続します。

JTAG 機能を使ったデバッグを行う場合はターゲットボード上に、JTAG ケーブルを接続するための回路やコネクタが必要になります。次の図を参考にしてターゲット上に回路を用意しておいてください。また、必ずご使用の CPU のユーザーズマニュアルも合わせてご確認ください。

(1) ターゲットボード上に用意する JTAG コネクタ

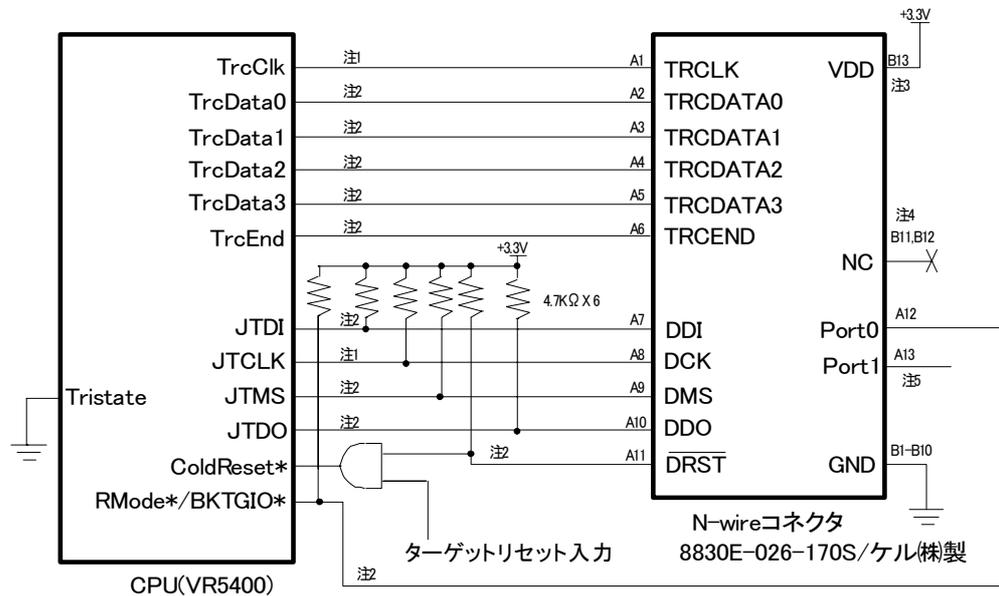


図 2-7 JTAG 接続コネクタ推奨回路例

- 注 1. クロックパターン長はできるだけ短くして、GND で囲んでシールドしてください。
(パターン長は 100mm を超えないようにしてください)
- 注 2. パターン長はできるだけ短くしてください。(パターン長は 100mm を超えないようにしてください)
- 注 3. 接続コネクタの B13(VDD ピン)は、ターゲットの電源に直接接続してください。(消費電流は約 10mA)
- 注 4. NC ピンは必ず未接続にしてください。
- 注 5. Port1 端子は PARTNER 側では未接続です。他のツールで使用するために配線されていてもかまいませんが、その場合はこのラインをプルアップする必要があります。
- 注 6. CXD4520 では、TrcClk, TrcData[3:0], TrcEnd 信号はありません。該当するコネクタ端子は GND に接続してください。この場合、リアルタイムトレース機能は使用できません。
- 注 7. JTRST 端子のある CPU では、コネクタの /DRST(A11) 端子を ColdReset ではなく JTRST 端子に接続してください。この場合、リセットプローブをリセットスイッチなどに接続して、CPU にリセットがかけられるようにしてください。

(2) JTAG コネクタピン配列

使用コネクタ型番 8830E-026-170S(ストレート) (ケル株式会社製)

使用コネクタ型番 8830E-026-170L(ライトアングル) (ケル株式会社製)

表 2-2 JTAG コネクタピン配列

PIN 番号	信号名	PIN 番号	信号名
A1	TRCCLK	B1	GND
A2	TRCDATA0	B2	GND
A3	TRCDATA1	B3	GND
A4	TRCDATA2	B4	GND
A5	TRCDATA3	B5	GND
A6	TRCEND	B6	GND
A7	DDI	B7	GND
A8	DCK	B8	GND
A9	DMS	B9	GND
A10	DD0	B10	GND
A11	/DRST	B11	NC
A12	PORT0	B12	NC
A13	PORT1 *1	B13	VDD(電源)

*1 本ツールではPORT1(A13)を使用しません。